

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 29 日現在

機関番号：34604

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2016

課題番号：15K17241

研究課題名(和文)カナダ多世代間交流の子育て支援をめぐる場作りの研究 ネイバーフッドハウスの事例

研究課題名(英文)Study of building up the place of multi-intergenerational childcare support -A case of Neighbourhood House in Canada -

研究代表者

岡野 聡子 (OKANO, Satoko)

奈良学園大学・人間教育学部・専任講師

研究者番号：50623964

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、カナダBC州バンクーバー市におけるネイバーフッドハウスを事例とし、多世代間交流の子育て支援をめぐる場作りについて考察することを目的としている。3施設の調査結果から、KitsilanoやGordonの場合、子どもと高齢者の活動量の差が語られ、施設内の空間活用の限界が示された。一方で、FrogHollowでは、多様なプログラムを同時に公共空間(公園)にて実施した結果、各プログラム参加者が必然的に集まり、多世代が集う場の形成を実現していた。また、利用者やボランティアスタッフがプログラム開催者として参画できるシステムがあり、多世代間交流の子育て支援の場は、地域の人々をつなげる可能性がある。

研究成果の概要(英文)：The target of the study is to consider how to build up the place of multi-intergenerational childcare support as a case of Neighbourhood House in Vancouver, BC, Canada. The survey results from the three Neighbourhood House showed that cases of Kitsilano Neighbourhood House and Gordon Neighbourhood House had difficulty of multi-intergenerational. It had differences in activity levels between children and the elderly, so the limits of space utilization within the facility was shown. On the other hand, a case of FrogHollow Neighbourhood House had holding various programs at the same time in public spaces (parks). Each program participant inevitably gathered and realized the formation of a place where many generations gather. And there is a system that users and volunteer staff can participate as program organizers. The place of multi-intergenerational childcare support is considered to fulfill a role of linking people in the community.

研究分野：社会福祉学

キーワード：カナダ 多世代間交流 子育て支援 ネイバーフッドハウス セツルメント

1. 研究開始当初の背景

国内外における少子高齢化の急速な進展と産業構造の変化は、単独世帯化や核家族化に代表される「世代間の分離」を促し、その結果、子どもの人間関係の狭小化、子育て技術の世代間伝達の困難さ、高齢者の孤立など、さまざまな社会的問題の要因を生み出している。世代間交流は、1960年代のアメリカで開始された「世代間交流プログラム」を皮切りとして、今や世界各国に広まりを見せている。カナダでは、2008年に教育関係者、医療従事者、高齢者、地域社会、若者、子育て支援を要する養育者らによって、**I2I Intergenerational society** が結成され、生涯発達の観点から見た多世代の交流活動の必要性が取り上げられてきた。我が国においても、近年、「世代間交流」や「小さな拠点」という言葉が脚光を浴び、幼老統合施設の運営をはじめとして、子育て広場や学校教育機関における世代間交流プログラムの実施等、世代間の交流促進を意識した取り組みが数多くなされてきた。しかし、活動内容を見ると、日常生活における世代間の交流を促す取り組みよりも、一時的なイベントの実施がほとんどであるという課題も見られる。

本研究で取り扱うネイバーフッドハウスとは、セツルメント運動を源流とした地縁型コミュニティの施設である。カナダ全土には100ヶ所以上あると言われ、カナダBC州バンクーバー市には16ヶ所(2017.3時点)が存在している。そこでは、多様な生活ニーズ(デイケア、学童保育、就労支援、シニアサービス、移民者支援プログラム、他)を充足させるためのサービス・プログラムが30種類ほど展開され、ボランティア主導で提供されている。また、対象者を限定しないという共通点を持っており、子どもから若者、高齢者まで、多様な世代が集う場を形成している。このネイバーフッドハウスの運営方法や日常的に多様な世代が集う場での子育て支援のあり様、多世代間の交流促進のための工夫、多世代間交流が子育て支援にもたらす効果等を考察することで、我が国における子育て支援施策に新たな視点を導入することができるのではないかと考え、本研究を構想するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、セツルメント運動を源流としたカナダBC州バンクーバー市におけるネイバーフッドハウスの運営方法やサービス・プログラムの実態、利用者・ボランティアスタッフの関係性を調査し、多世代間交流の子育て支援をめぐる場作りについて考察することを目的としている。

3. 研究の方法

研究方法は、フィールドワークおよびインタビュー調査である。調査地は、カナダBC州バンクーバー市にある3ヶ所のネイバーフッドハウスである。調査地の選定については、2011年度の国勢調査結果(Census Canada 2011)から、子育て世代が比較的多く住む地域を割り出し、決定した。調査日程および調査地、インタビュー対象者は、以下の通りである。

- ・2015年8月9日(日)～8月22日(土)
 実質現地調査：8日間
 場所：FrogHollow Neighbourhood House
 (2131 Renfrew St. Van, BC, V5M 4M5)
 インタビュー対象者：スタッフ3名、ボランティアスタッフ2名、利用者：13名
- ・2016年2月15日(月)～3月3日(木)
 実質現地調査：11日間
 場所：FrogHollow Neighbourhood House
 (2131 Renfrew St. Van, BC, V5M 4M5)
 Kitsilano Neighbourhood House
 (2305 West 7th Ave, Van, BC, V6K 1Y1)
 Kiwassa Neighbourhood House
 (2425 Oxford St, Van, BC, V5K 1M7)
 Collingwood Neighbourhood House
 (5288 Joyce St, Van, BC, V5R 6C9)
 Eastside Neighbourhood House
 (408-533 East-Hastings St, Van, BC
 V6A 1P9)
 インタビュー対象者 (FrogHollow) :
 スタッフ：1名、利用者：3名
 インタビュー対象者 (Kitsilano) : スタッフ
 1名 (改装中のため、利用者等不在)
- ・2017年2月20日(月)～3月2日(木)
 実質現地調査：6日間
 場所：Kitsilano Neighbourhood House
 (2305 West 7th Ave, Van, BC, V6K 1Y1)
 Gordon Neighbourhood House
 (1019 Broughton St, Van, BC, V6G 2A7)
 インタビュー対象者 (Kitsilano) : 施設長
 1名、スタッフ4名、ボランティア
 スタッフ2名、利用者：2名
 インタビュー対象者 (Gordon) : スタッフ
 3名、ボランティアスタッフ1名、
 利用者4名

調査地については、当初、Gordon Neighbourhood House、FrogHollow Neighbourhood House、Kitsilano Neighbourhood Houseとしていたが、ネイバーフッドハウスの研究者であるブリティッシュコロロンビア大学のYan教授からの推薦もあり、Kiwassa Neighbourhood House、Collingwood neighbourhood House、Eastend Neighbourhood Houseの視察も行った。なお、本研究においては、分析対象とはしていない。ネイバーフッドハウスにおける多世代間

交流の子育て支援をめぐる場作りを考察するにあたり、以下の手順で調査・分析をした。まず、サービス・プログラムの実態については、各施設のホームページや配付されている広報誌から情報収集を行い、明らかにした。次に、運営方法については、施設長や職員へのインタビュー調査、参与観察を通して検討した。最後に、利用者・ボランティアスタッフの関係性、多世代間交流で得られる効果については、インタビュー調査実施後、質的コーディング分析を通して考察した。なお、研究倫理に関しては、American Psychological Association および日本心理学会の倫理基準を遵守し、取り組んだ。

4. 研究成果

(1) FrogHollow Neighbourhood House

FrogHollow Neighbourhood House が位置するイーストバンクーバー・ヘイスティングサンライズ地区は、19 世紀半ばにニューウエストミンスター市やフレイザー川の上流の街を補完する目的で建設された街であり、中国系、イタリア系、ベトナム系移民が多く住む街である。本施設は、1977 年に開設され、提供されているサービス・プログラムは、32 種類である。(2015.8 時点)

表 1 サービス・プログラムの対象者・数

	対象者	サービスプログラム数
1	乳幼児 (1.5-6 歳)	4
2	学齢期の児童・生徒 (5~18 歳)	9
3	家族 (子どもがいる家族)	4
4	若者 (16~30 歳)	2
5	高齢者 (50 歳以上)	5
6	新移民者	1
7	全ての人	7
サービス・プログラム総数		32

また、2011 年度~2013 年度に、高齢者福祉を促進させることを目的として、世代間交流プロジェクト (参加者: 10~30 代・50 歳以上) を実施したことが特徴的である。

本施設における多世代間交流の場作りの工夫としては、①7~8 月の夏期シーズンに、ファミリードロップインプログラム、シニアプログラム、中高生対象のボランティアリーダー養成プログラムをクリントンパーク (施設から徒歩 10 分圏内) にて実施していること、②学童保育に中・高・大学生のボランティアを募り、月 1 で実施している異文化交流企画を保護者が実施していること、③ハロウィンやクリスマス等の全ての人に開かれた行事を実施していることが挙げられた。

利用者、ボランティアスタッフを対象としたインタビュー調査結果からは、①多様な世代が関わることで、年長者が成長のロールモデルの役割を果たすこと、②中高生のボランティアスタッフの様子を見た親が、自身の子どもへの具体的なイメージが持てる

こと、③多様な世代とのソーシャルスキルの獲得ができること、④利用者自身が施設内の企画にボランティアスタッフとなって主体的に参画できる仕組みがあることや、母国語での子育て広場の開設を母親自身が実施していること (self-help group の形成) により、子育ての支援を受けているという感覚ではなく、コミュニティメンバーとして共に活動しているということが語られた。また、日本人の 40 代の母親 7 名を対象としたインタビュー調査結果からは、「自分から進んで異世代と関わることはない」と語られ、多様な世代が集う場が目前にあったとしても、交流活動を促すスタッフの介入といった手立てが必要であることも示唆された。

(2) Kitsilano Neighbourhood House

Kitsilano Neighbourhood House は、ウエストバンクーバー・キツラノ地区に位置し、閑静な高級住宅街が立ち並ぶ場所である。本施設は 1974 年に開設され、2016 年に現在の場所に移動したと同時に入所型老人ホームが併設された。提供されているサービス・プログラムは、28 種類である (2017.2 時点)

表 2 サービス・プログラムの対象者・数

	対象者	サービスプログラム数
1	乳幼児 (1.5-6 歳)	5
2	学齢期の児童・生徒 (5~18 歳)	3
3	家族 (子どもがいる家族)	3
4	若者 (16~30 歳)	0
5	高齢者 (50 歳以上)	4
6	新移民者	1
7	全ての人	12
サービス・プログラム総数		28

本施設における多世代交流の場作りの工夫としては、①学童保育に通う子ども達 (小学生) とその家族、高齢者が共に食事を作って食べるという交流活動を月 1 回実施していること、②ハロウィンやクリスマス等の全ての人に開かれた行事を実施していることが挙げられる。

①を実施しているスタッフおよび利用者、ボランティアスタッフを対象としたインタビュー調査結果からは、①高齢者と関わり合いや話し合いを持つこと自体が、子どもにとって新しい体験と発見となり、学校教育では習わないことを教えてもらうことができる点、②食事会の実施を通して、コミュニティメンバーと共に楽しい雰囲気の中で食事をとることで、地域社会をより身近に感じ、親は、自身の子どもがコミュニティから受け入れられ、大事にされているという感覚を得られる点、③孤立しがちな高齢者が、地域社会との関わりを持つことができる最適な場となり、子ども達との関わりを楽しむことで、

気分が明るくなったり、生きる意欲が湧く点が挙げられた。また、スタッフからは、「交流会は地域に開かれたものだが、全ての高齢者が来るべきとは考えておらず、子ども達との関わりを好む高齢者は何度も通ってきてくれるため、そこで子ども達との関わりが積み重なっていくことを大切にしたい」と述べていた。子ども達の人数が多すぎると、騒がしくなりすぎたり、高齢者が圧倒されてしまう場面があったため、子ども達の人数は2~4人（家族を含めると10人未満）が最適であるという意見もあった。

(3) Gordon Neighbourhood House

Gordon Neighbourhood House は、ダウンタウンの中心市街地・ウエストエンド地区に位置し、ビジネス街・商業地区に囲まれた低層住宅街の中にある。本施設は、1942年に開設され、提供されているサービス・プログラムは、28種類である。(2017.2時点)

表3 サービス・プログラムの対象者・数

	対象者	サービス プログラム数
1	乳幼児 (1.5-6歳)	2
2	学齢期の児童・生徒 (5~18歳)	5
3	家族 (子どもがいる家族)	3
4	若者 (16~30歳)	0
5	高齢者 (50歳以上)	5
6	新移民者	1
	セルフ・ヘルプグループ	4
7	全ての人	8
	サービス・プログラム総数	28

スタッフおよび利用者、ボランティアスタッフのインタビュー調査結果からは、多世代間交流を意図とした交流会活動（ランチ提供）を過去に実施していたが、現在では行っていないことが明らかとなった。特に、活発に動く子ども達（小学生）の活動量と高齢者の動きが合わなかったことが述べられた。スタッフからは、高齢者が子どもに昔話をする会の実施を検討していることが述べられた。

上記の調査結果から学ぶべき点は、特に世代間交流プロジェクトの実施経験のあるFrogHollow Neighbourhood Houseにおいて、施設内で実施しているプログラムを組合せ、夏期シーズンだけではあるが、公園という公共の場に、多様な世代が集える場を設定し、乳幼児、小学生、中・高・大学生、親、高齢者がそれぞれの活動量に応じた形で、多様な世代が関わることのできる空間を実現した点である。また、FrogHollow Neighbourhood Houseにおける参与観察からは、ヨガをしている中国人の高齢者グループに幼稚園や小学生の子ども達が参加をし、一緒に楽しむ姿が観察された。その際、それまで中国語で会

話をしていた高齢者が、子ども達がグループ内に入ったことにより、スタッフの介入なしに、英語で会話をし始め、関わり合うという姿が見られた。中・高・大学生が乳幼児・小学生と関わりを持っている場面では、保護者同士が自身の子どもの見守りながら会話を楽しむ様子があり、それぞれの居場所を持ちながら、相互交流を可能としていた。

Kitsilano Neighbourhood House や Gordon Neighbourhood House の調査結果では、子どもと高齢者の活動量の差が語られ、いずれも施設内の空間活用に限界があったことが示されていたことから、FrogHollow Neighbourhood House の公共空間における多様な世代の場作りの実践には、意義があると言える。さらに、利用者自身が施設内の企画にボランティアスタッフとなって主体的に参画できる仕組みがあること、母国語での子育て広場の開設を母親自身が実施していること（self-help group の形成）により、子育ての支援を受けているという感覚ではなく、コミュニティメンバーとして共に活動しているということが語られた。我が国における子育て支援では、支援者（スタッフ）一被支援者（利用者）の関係性になりがちだが、被支援者の主体性を援助する方向で働きかければ、地域づくりの視点としての子育て支援が可能になると思われる。今後も、多様な世代が集い合う場の形成に着目すると同時に、多世代間交流の意義、そして交流の質的レベルへの考察を深める必要がある。

<参考文献>

Cavers, V. with Carr, P. and Sandercock, L. "How Strangers Become Neighbours : Construction Citizenship Thruh Neighbourhood Community Development", Metropolis British Columbia Working Paper Series No.07-11, 2007

Gordon Neighbourhood House, "Social Programs & Services for the West End Guidebook", 2009

Miu Chung Yan, "Recapturing the History of Settlement House Movement : Its Philosophy, Service Model and Implications in China's Development of Community-based Centre Services", Asia Pacific Journal of Social Work, 2002

Miu Chung Yan. "Bridging the fragmented community: Revitalizing settlement houses in the global era." Journal of Community Practice, Vol.12, 2004 : pp.51-69

Miu Chung yan, Sean Lauer, "Social Capital and Ethno-Cultural Diverse Immigrants: A Canadian Study on Settlement House and Social Integration", *Journal of Ethnic & Cultural Diversity in Social Work*, Vol.17(3), 2008 : pp.229-250

Prudence Brown, Kitty Barnes, "Connecting Neighbors – The role of settlement house in building social bonds within communities" *United neighborhood house of New York*, 2001

Putnam, Robert D. "Bowling Alone – The Collapse and revival of American Community – ", Simon&Scuster, New York/London/Tronto/Sydney, 2000

Sandrtcock, L. "Cosmopolis II : Mongrel Cities in the 21st Century.", Great Britain: MPG Books Ltd, 2003

S.R. Lauer and M.C. Yan, "Voluntary Association Involvement and Immigrant network Diversity" *IOM International migration*, 2010 : pp.1-27

草野篤子、金田利子、間野百子、柿沼幸雄編著 (2009) 『世代間交流効果—人間発達と共生社会づくりの視点から』三学出版、pp.181-204

草野篤子、柿沼幸雄、金田利子、藤原佳典、間野百子 (2010) 『世代間交流学の創造—無援社会から多世代間交流型社会実現のために』あけび書房

草野篤子、内田勇人、溝邊和成、吉津晶子編著 (2012) 『多様化社会をつむぐ世代間交流—一次世代への『いのち』の連鎖をつなぐ』三学出版 : pp119-159

草野篤子、溝邊和成、内田勇人、安永正史、山之口俊子編著 (2015) 『人を結び、未来を拓く世代間交流』三学出版

佐藤郁哉 (2002) 『フィールドワークの技法』新曜社 : p.70、p.293-324

佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法』新曜社 : pp.91-109

田中秀樹 (2009) 「アウトリーチ～その理論と実践例～」『コミュニティソーシャルワーク』第3号 : p.32

中井孝章編、川口良仁、小伊藤亜希子著 (2008) 『街づくりと多世代交流』大阪公立大学共同出版

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計1件)

- ①岡野聡子「カナダ・ネイバーフッドハウスにおける世代間交流の研究 : フロッグホロウネイバーフッドハウスにおける世代間交流プロジェクトの事例から」2015年9月『奈良学園大学紀要3』、査読無し、9-27頁、<https://naragakuen.repo.nii.ac.jp/>

[学会発表] (計3件)

- ①岡野聡子「多世代交流の子育て支援をめぐる取り組み～カナダ・ネイバーフッドハウスを事例として～」2017年10月、日本世代間交流学会第8回全国大会、(熊本学園大学)
- ②岡野聡子「カナダにおける住民参加型地域福祉推進のための方策とその工夫～“Everything Present in the Seed”の資料分析から～」2017年6月、日本地域福祉学会第31回大会、p.168 (松山大学)
- ③岡野聡子「カナダ・フロッグホロウネイバーフッドハウスにおける世代間交流プロジェクトの取り組み～Generating Citizenship Seniors + Youth の実践から～」2015年10月、日本世代間交流学会第6回全国大会、p.51 (追手門大学大阪城スクエア)

[図書] (計1件)

- ①大方美香・名須川知子 (監修)、伊藤篤 (編著)、岡野聡子、大方美香、大西晶子、寺村ゆかの、植木信一、山岡テイ、高畑芳美、吉岡洋子 (著) 『MINERUVA はじめて学ぶ保育 (12巻)』2017年7月、ミネルヴァ書房、担当頁 : レッスン1, 2, 13 (総頁数未定)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡野 聡子 (OKANO, Satoko)
奈良学園大学・人間教育学部・専任講師
研究者番号 : 50623964